

士会連合会賞

「建築作品賞」創設 若手、地域にスポット

日本建築士会連合会(三井所清典会長)は25日、「日本建築士会連合会賞」を見直し、「日本建築士会連合会建築作品賞」を創設すると発表した。建築作品に関する賞であることを明確にするため名称に「作品賞」を付けたほか、若手設計者の意欲的な取り組みを奨励するため、応募建築物工時に40歳以下の建築士(筆頭建築士)を対象とする「U40賞」も創設する。広く作品を募るために従来の自薦に加え、他薦、建築士の推薦も対象とする。第1回建築作品賞の応募資料は連合会のホームページからダウンロードできる。応募は2020年3月末まで受け付ける。

所会長は、「地域の経済的條件、社会的背景を審査基準の

中に取り込んで審査してこたがよいと思った。タスクフォース(TF)を設置して見直しを検討し、予想以上の成果が出てきた。多様な視点での審査に期待している」と述べた。

TFの主旨を務めた近角真一(東京建築士会会長)は「議論の大きなポイントは、これまでの入賞作品の偏りをなくすることだった。過去5年の入賞作品を分析した結果、地方からの応募数が少なくなっていた。原点に戻るべきと結論付けた」とし、地域に根を下ろした作品づくりに日々研さん

している建築士にスポットを当てた検討過程を振り返った。

新たな賞では「気候風土や地域の課題に真摯(しんし)に向き合い、まちづくりや地域づくりに貢献・寄与している建築作品」など、従来は必ずしも明確でなかった目的を明確化した。

応募者が賞の対象としている建物をよりイメージしやすくするため、対象作品のカテゴリーも設定し、新築では「住宅・居住系」「商業・業務・交通系」「教育・文化・福祉系」「その他」の4分野

を設定。新築4分野とリノベーションそれぞれから優秀賞(奨励賞を考慮し)、優秀賞の中から大賞を1点選ぶ。

審査基準も地域をキーワードに自然環境や街並み・景観形成、歴史性との関係性などの項目を設けて明確化した。

THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS 2019年(令和元年) 11月26日(火) 第19791号

建設工業新聞

記事 電話03-3433-7161 fax 1 esd@denon.jp 編集 電話03-3433-7162 fax 1 esj@denon.co.jp 広告 電話03-3433-7164 e1g@denon.co.jp

発行所 日本建設工業新聞社 字 105-0011 東京都港区赤坂2-2-10 電話03-3433-7151 http://www.denon.co.jp/ ©日本建設工業新聞社 2019

士会連合会が 「建築作品賞」 第1回受け付けは 20年3月末まで



三井所会長

日本建築士会連合会(士会連合会・三井所清典会長)は、優れた建築作品や業績を顕彰する士会連合会賞を見直し、新たに「建築作品賞」を創設する。募集対象を建築作品に限定し表彰制度の目的を明確にする。部門は新築とリノベーションに分れる。この中から最も優れた作品を大賞として選ぶ。第1回募集を2020

年3月31日まで受け付ける。

建築作品賞は街づくりを通じて地域の発展に貢献し、創意工夫が見られる建築作品を対象とする。新築・リノベーションとも竣工5年以内の物件が対象。応募はこれまでの自薦に加え、他薦や建築士会からの推薦も認める。

新築はカテゴリーを▽居住・生活空間▽商業・業務▽交通▽教育・文化・福祉▽その他への4つに分れる。既存施設が対象のリノベーションと合わせた2部門で競い合い、優秀賞計5作品を決める。この中から大賞を選ぶ。40歳以下の若手設計者が対象の「U40賞」も創設する。来年11月に広島市内で開く「第63回建築士全国大会」で表彰する。募集要項は士会連合会のホームページで入手する。

25日に東京都内で会見した三井所会長は「日本の各地域がさまざまな要因で衰退している。建築を通じて地域活性化や国際的にもアピールできる作品を求めたい」と期待を寄せた。